

## 文化・芸術

### 「ランドスケープ」

1979年 レリーフ  
22・7センチ×18・0センチ

和南城孝志 (1949～2003年)

常設展・展示室4では、「桐生のアーティスト」として桐生ゆかりのアーティストの作品を展示しております(現在は臨時休館中)。その中の一点をご紹介します。

桐生市に生まれた和南城孝志は、1972年から23年間を石の町・ローマと日本とを拠点に制作、95年からは高山村にアトリエを構えました。

本作は同名のレリーフのシリーズ7点のうちの1点とされます。この作品について、「イタリア・ローマに住み、『太陽の国』を実感していました。ローマから一歩郊外に出ると(アップピア街道など)糸杉が石畳の道の両側に延々と続く風景がありました。この太陽と糸杉から生まれ発想されたのが本作でしょう。亡夫にとって日本とイタリアが自分の故郷でした」(2020年4月17日/メールインタビューより)と語るのは、ローマ留学時代に出会い、若き日からつねにその制作に寄り添ってきた、ピラニストの妻・洋子氏です。

(小此木)

### 名画の扉

休館中の大川美術館から

